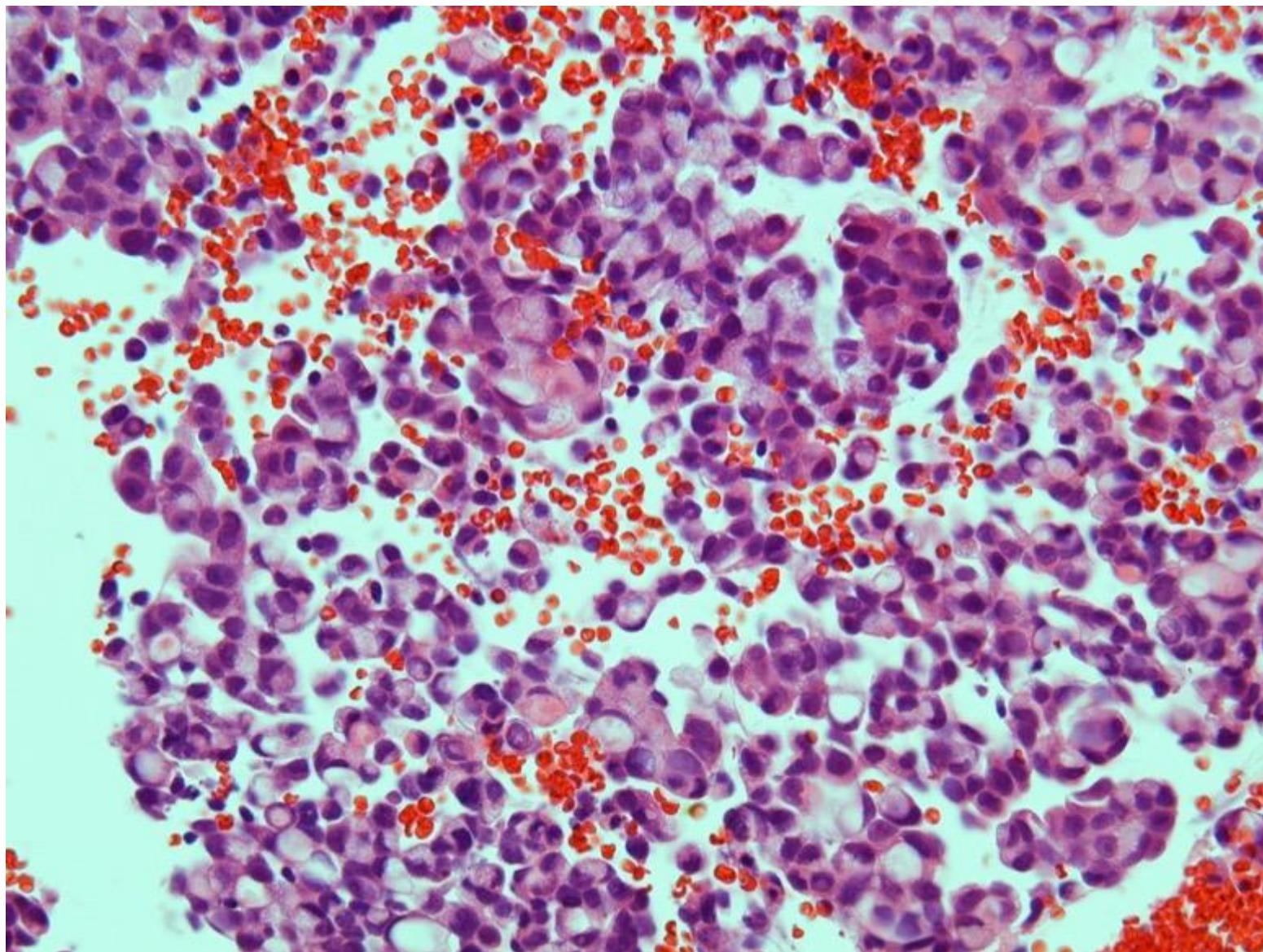


解說

生検



生検の診断

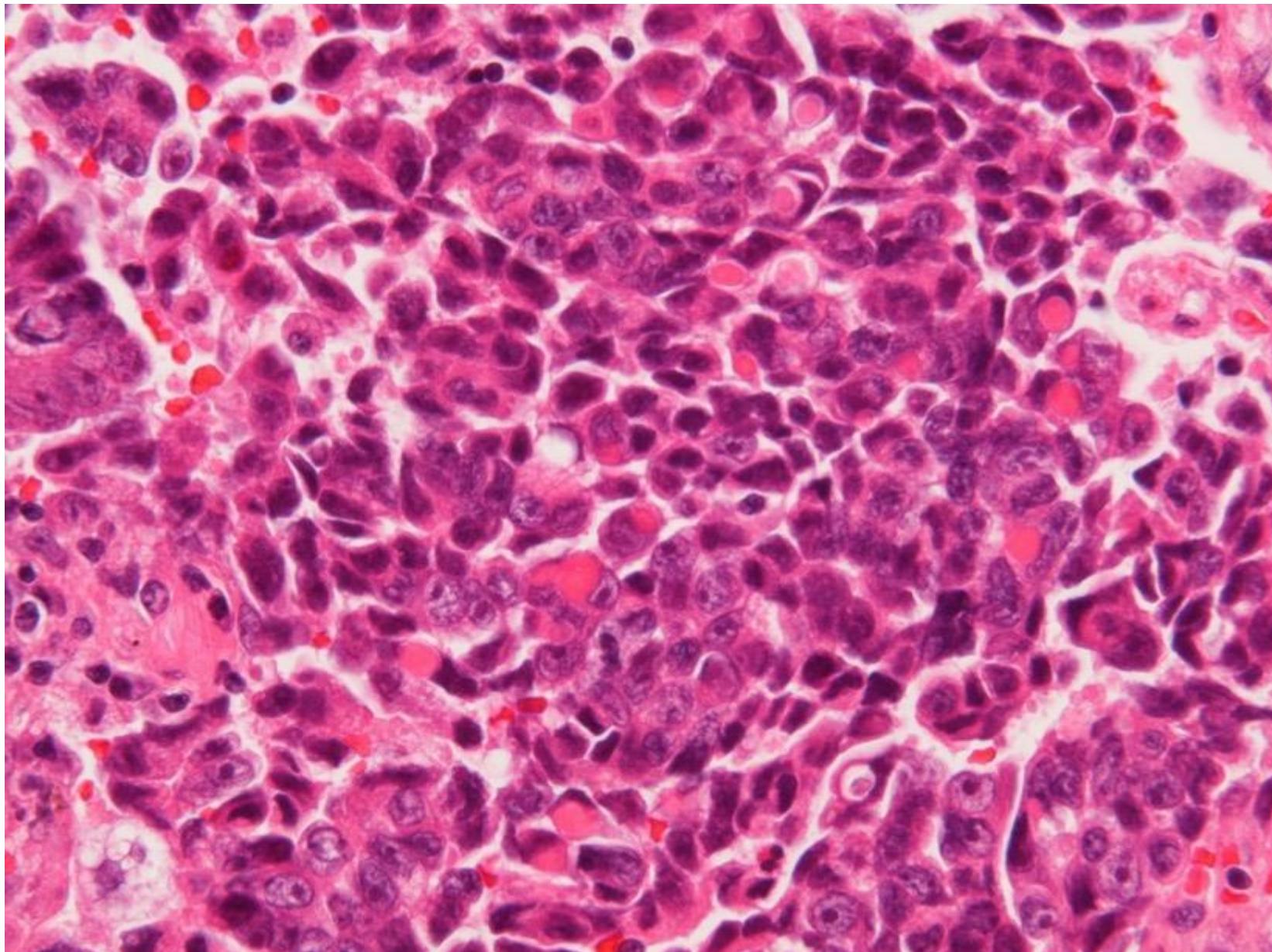
Adenocarcinoma

EGFR遺伝子変異

Exon 19 (-) , L858R (-) , T790M (-)

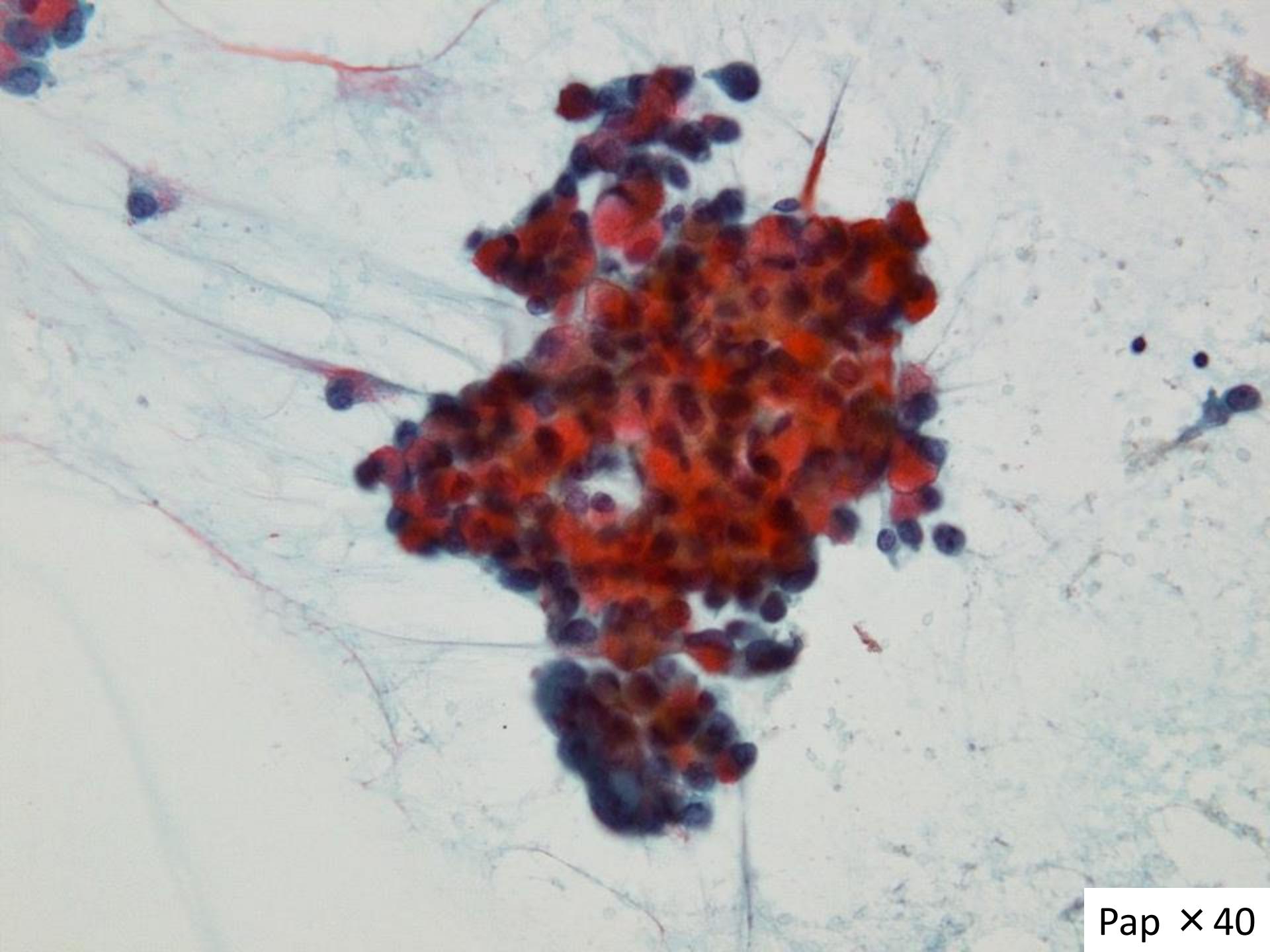
ALK IHC(+) , FISH(+)

手術材料

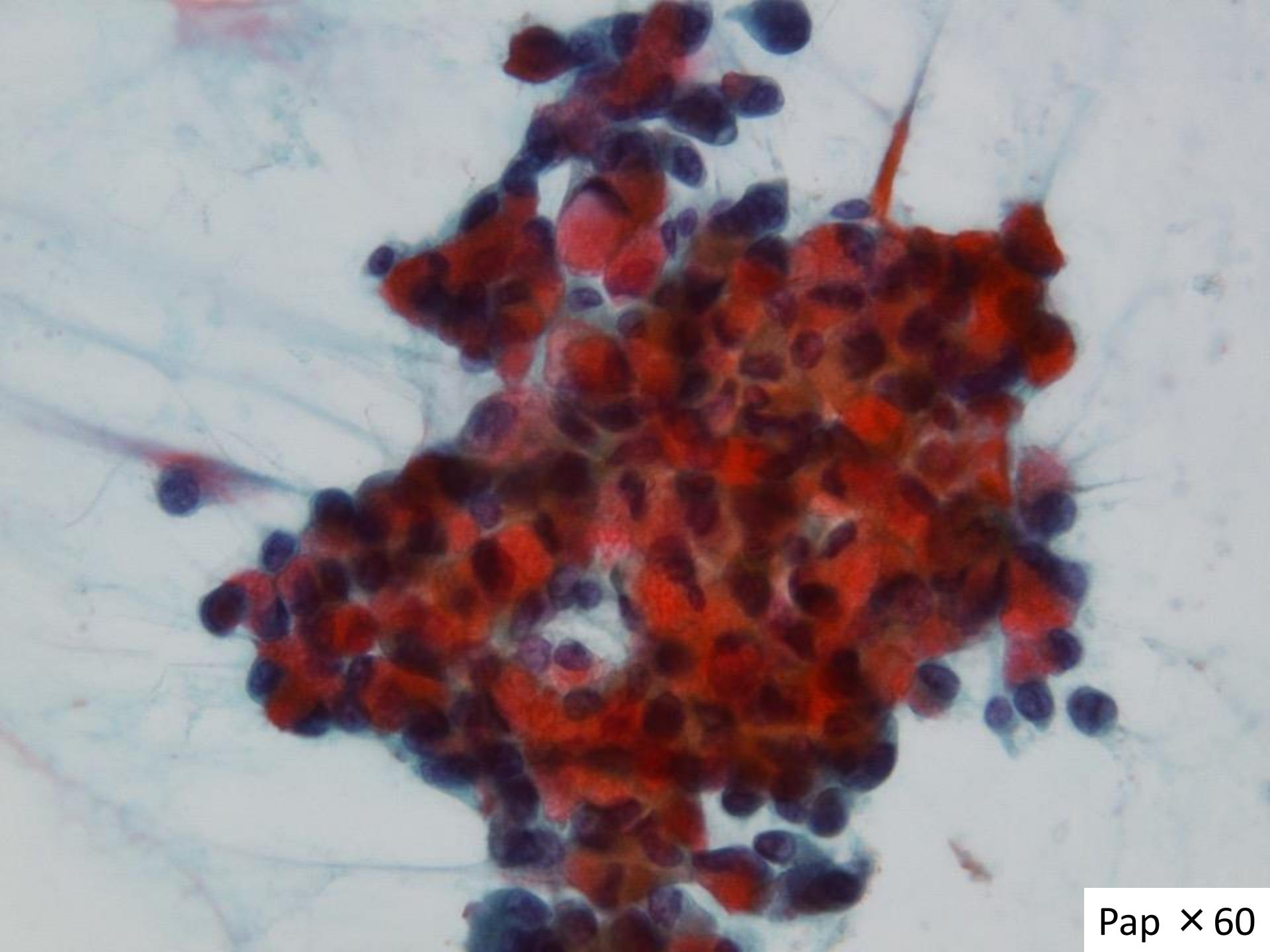


手術材料の診断

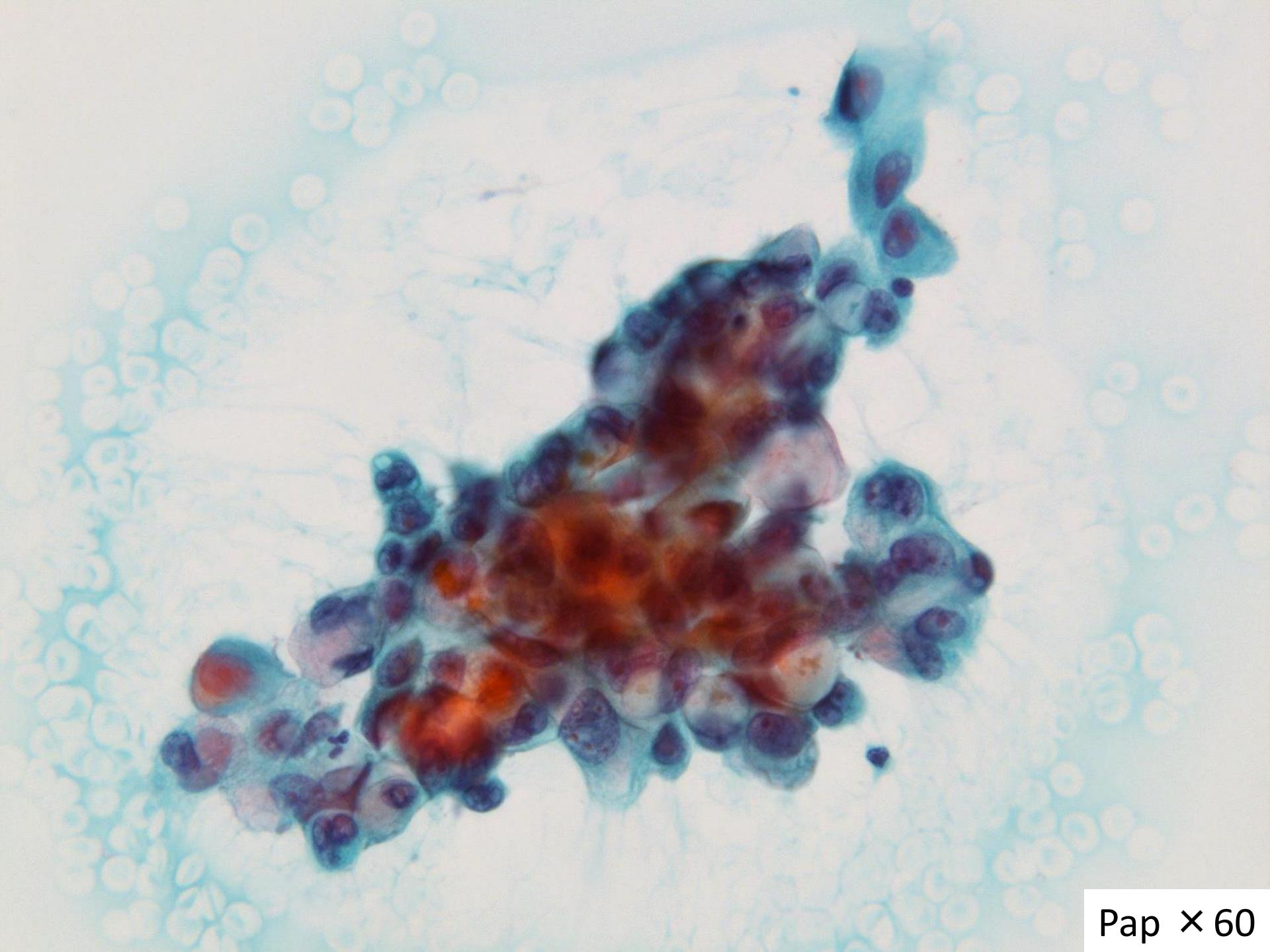
浸潤性腺癌(充実型腺癌)



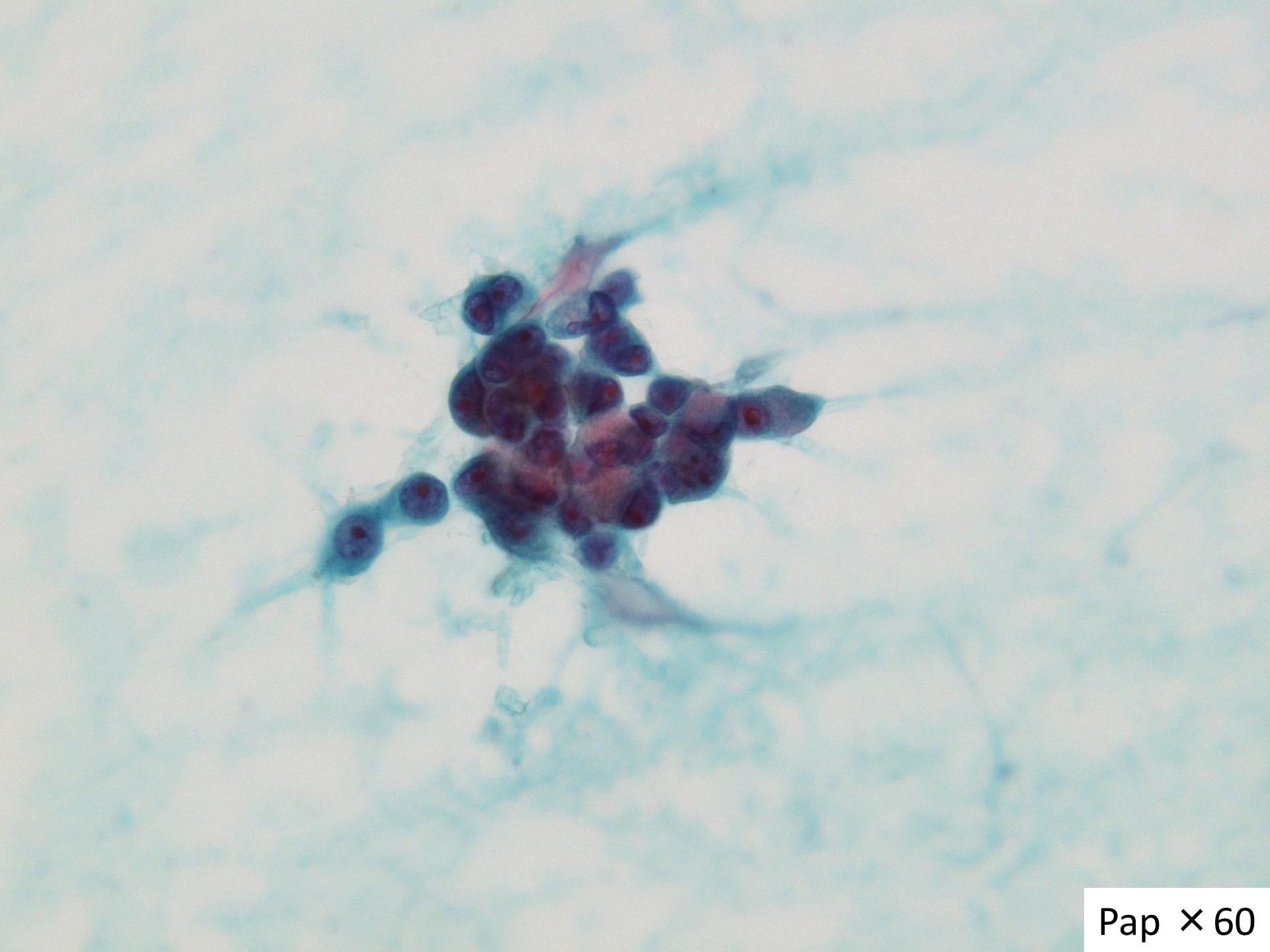
Pap $\times 40$



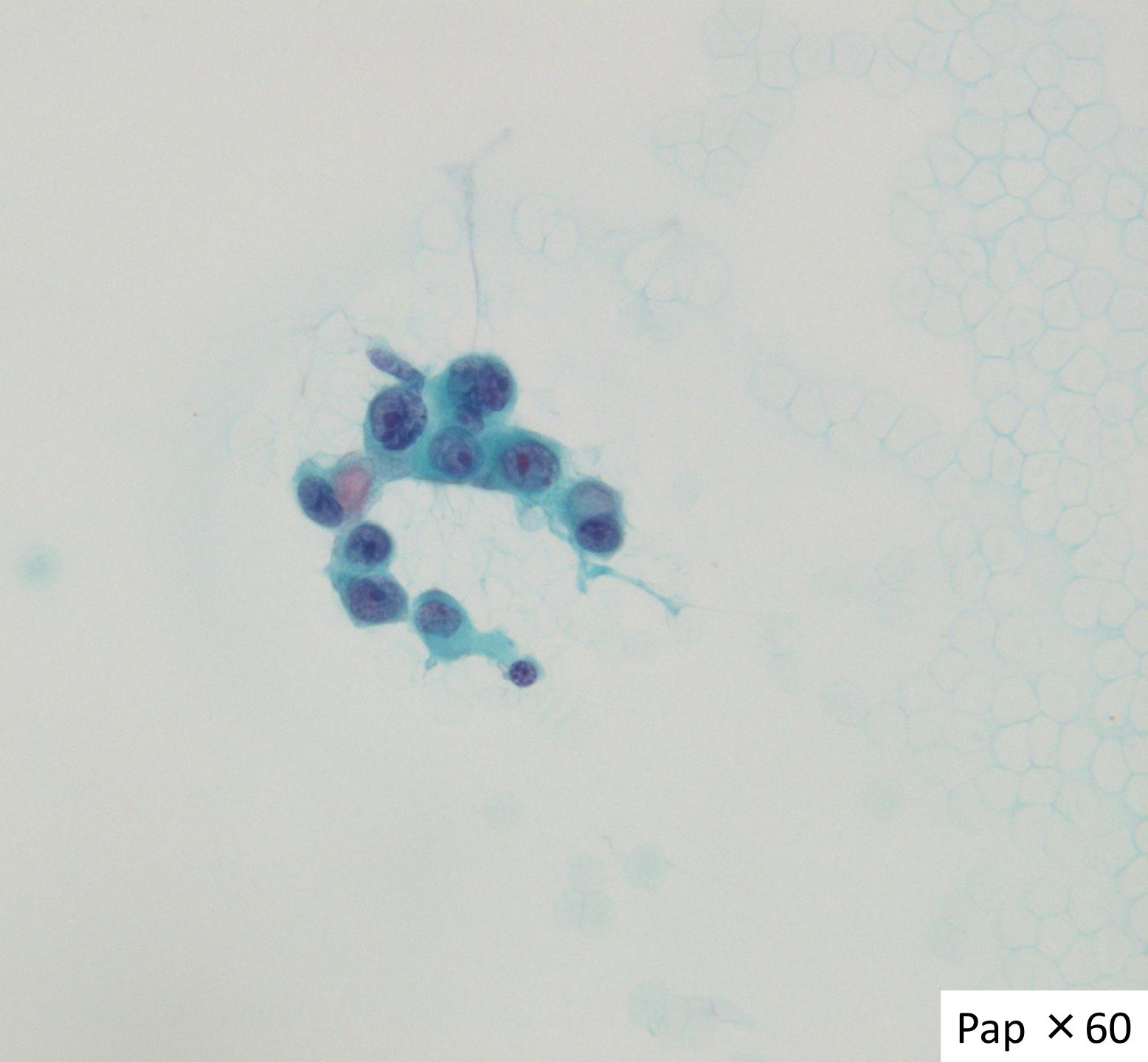
Pap $\times 60$



Pap $\times 60$



Pap $\times 60$



Pap $\times 60$

当院での細胞診断

Class V

Adenocarcinoma

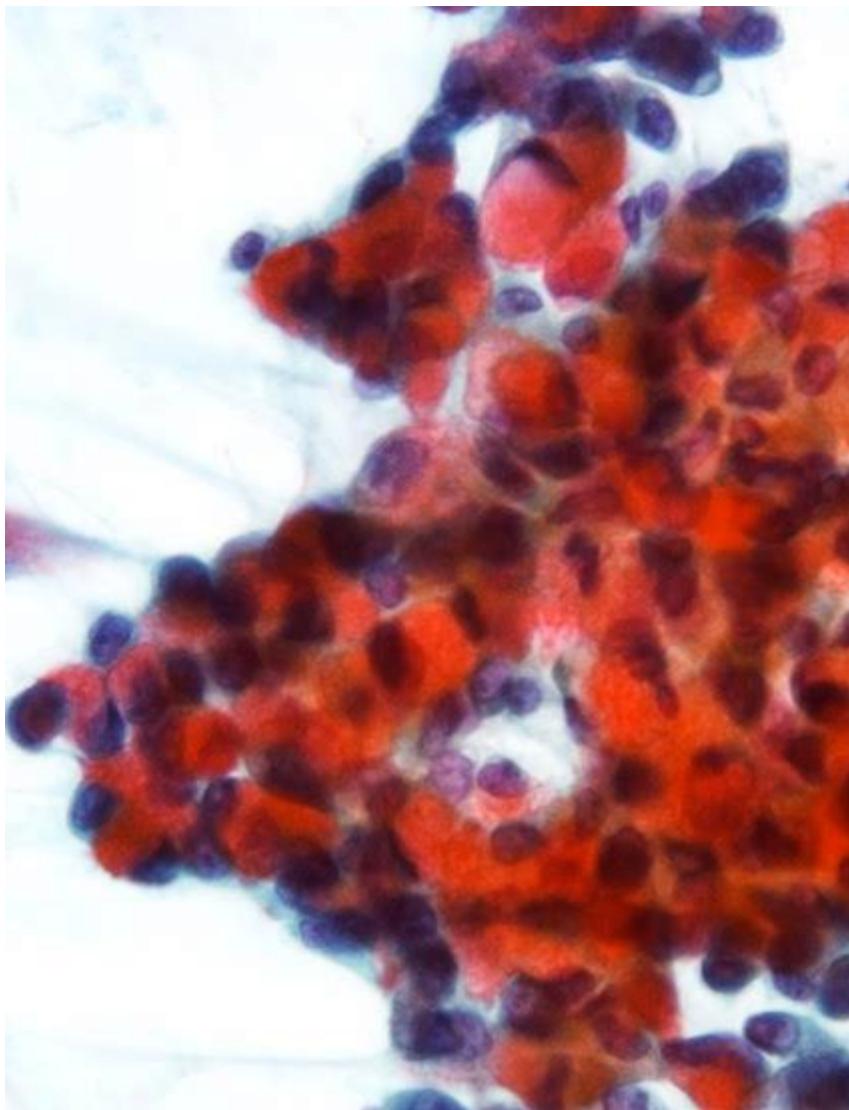
選択肢

1. 杯細胞増生
2. 大腸癌転移
3. 粘表皮癌
4. 浸潤性腺癌(充実型腺癌)
5. 特殊型腺癌(浸潤性粘液性腺癌)

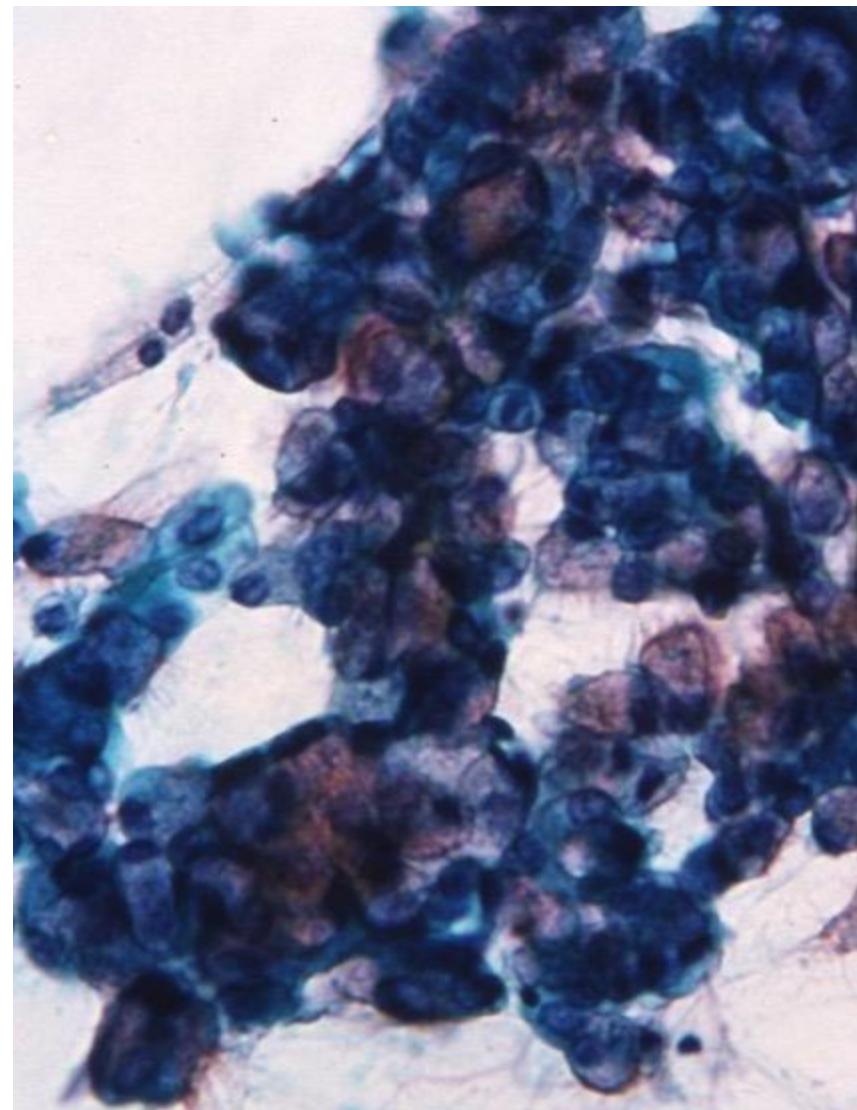
選択肢

1. 杯細胞増生
2. 大腸癌転移
3. 粘表皮癌
4. 浸潤性腺癌(充実型腺癌)
5. 特殊型腺癌(浸潤性粘液性腺癌)

本症例



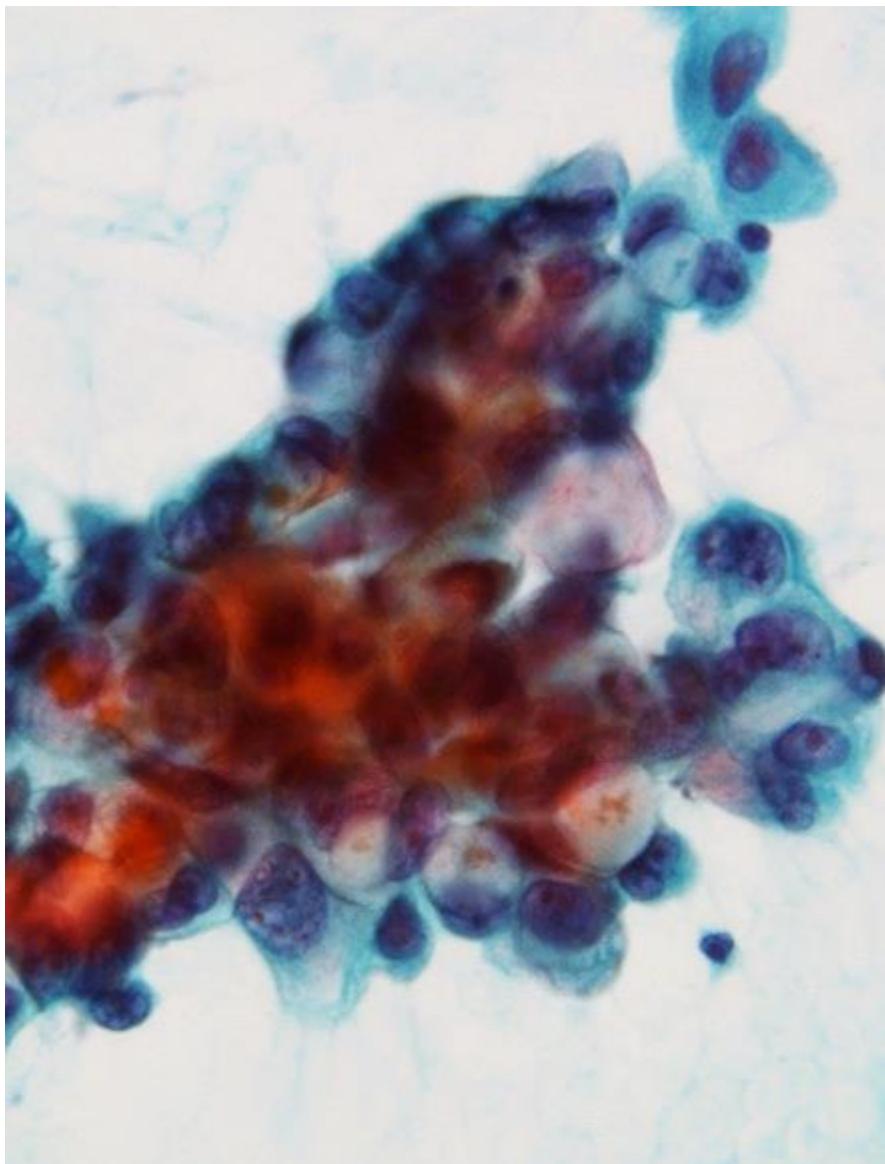
杯細胞增生



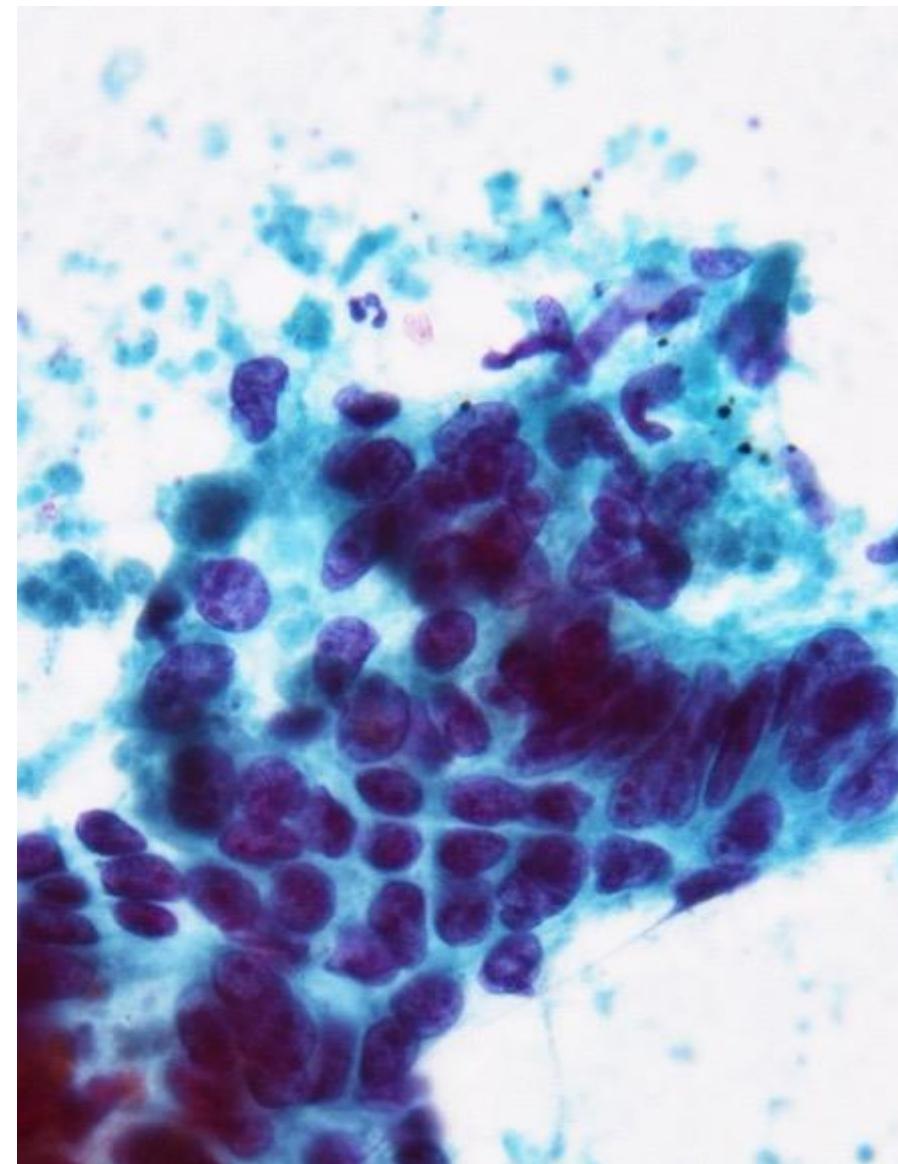
選択肢

1. 杯細胞増生
2. 大腸癌転移
3. 粘表皮癌
4. 浸潤性腺癌(充実型腺癌)
5. 特殊型腺癌(浸潤性粘液性腺癌)

本症例



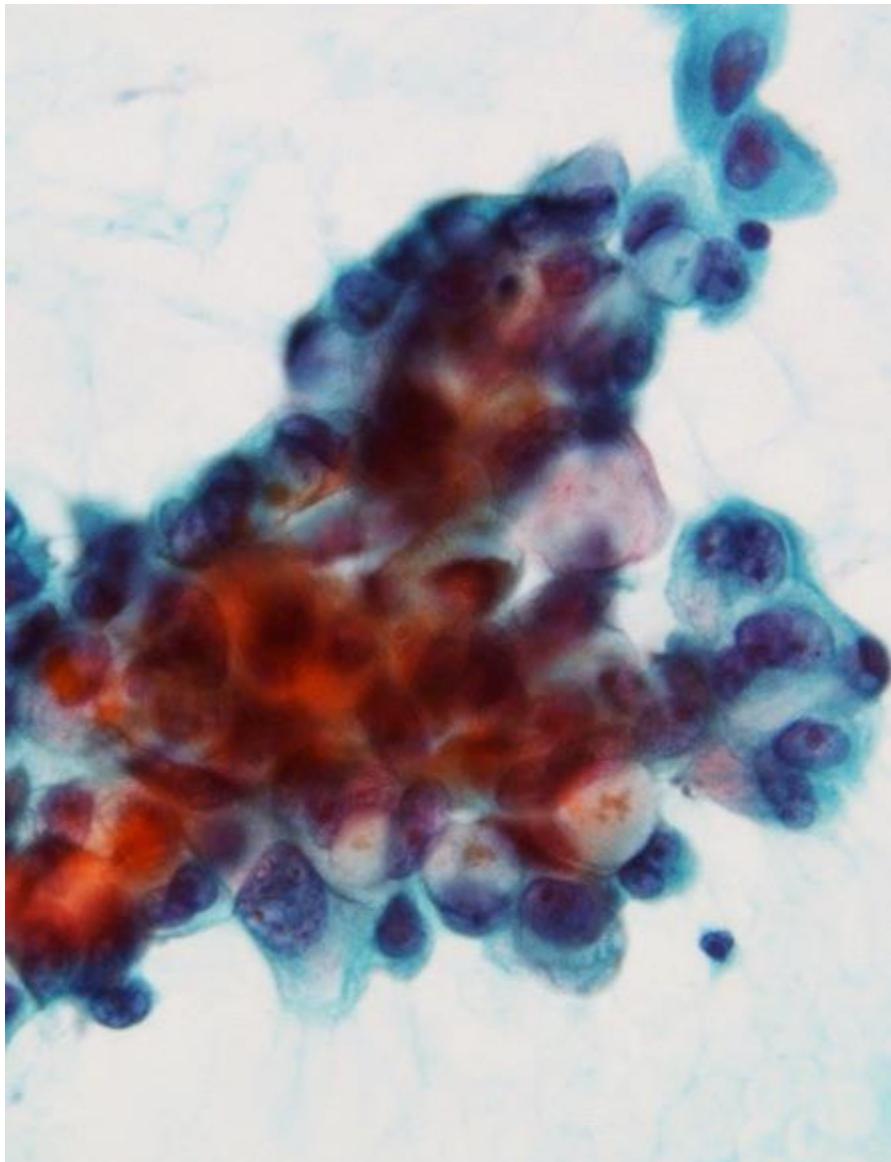
大腸癌転移



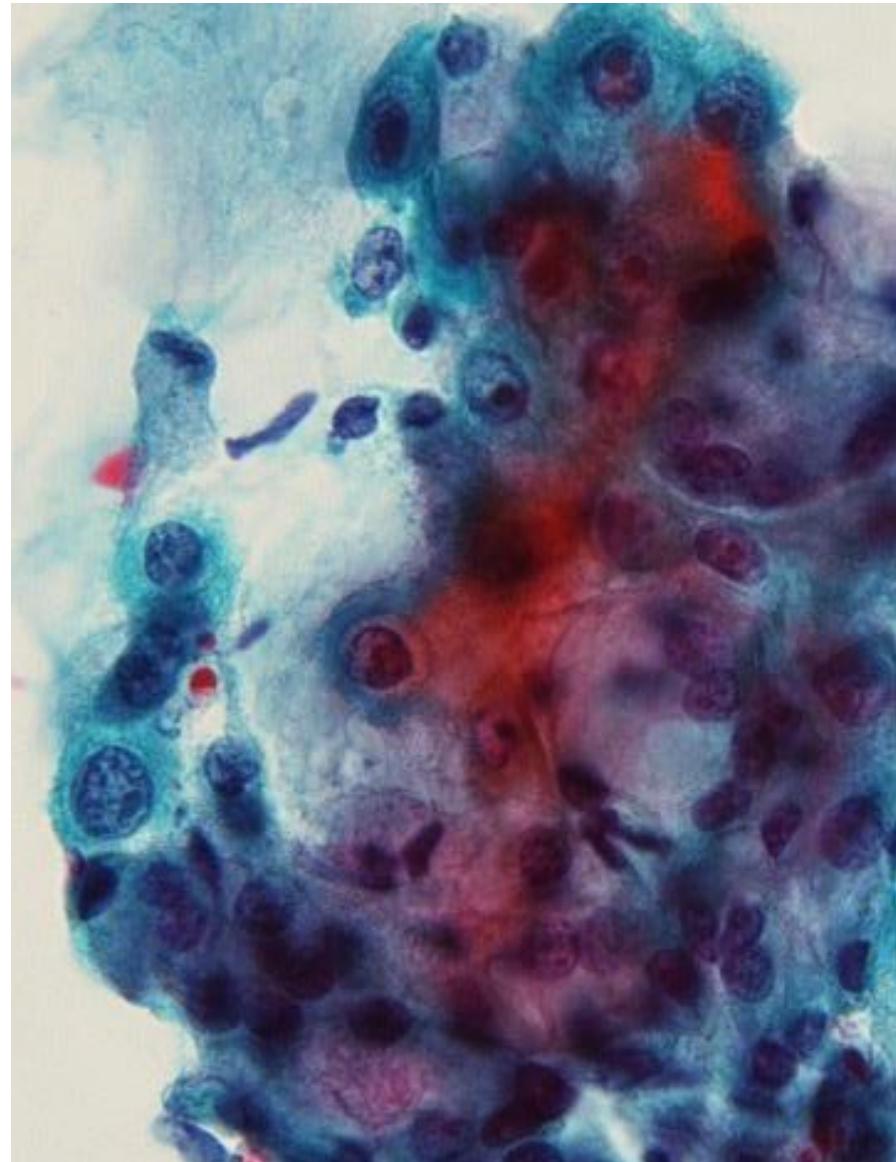
選択肢

1. 杯細胞増生
2. 大腸癌転移
3. 粘表皮癌
4. 浸潤性腺癌(充実型腺癌)
5. 特殊型腺癌(浸潤性粘液性腺癌)

本症例



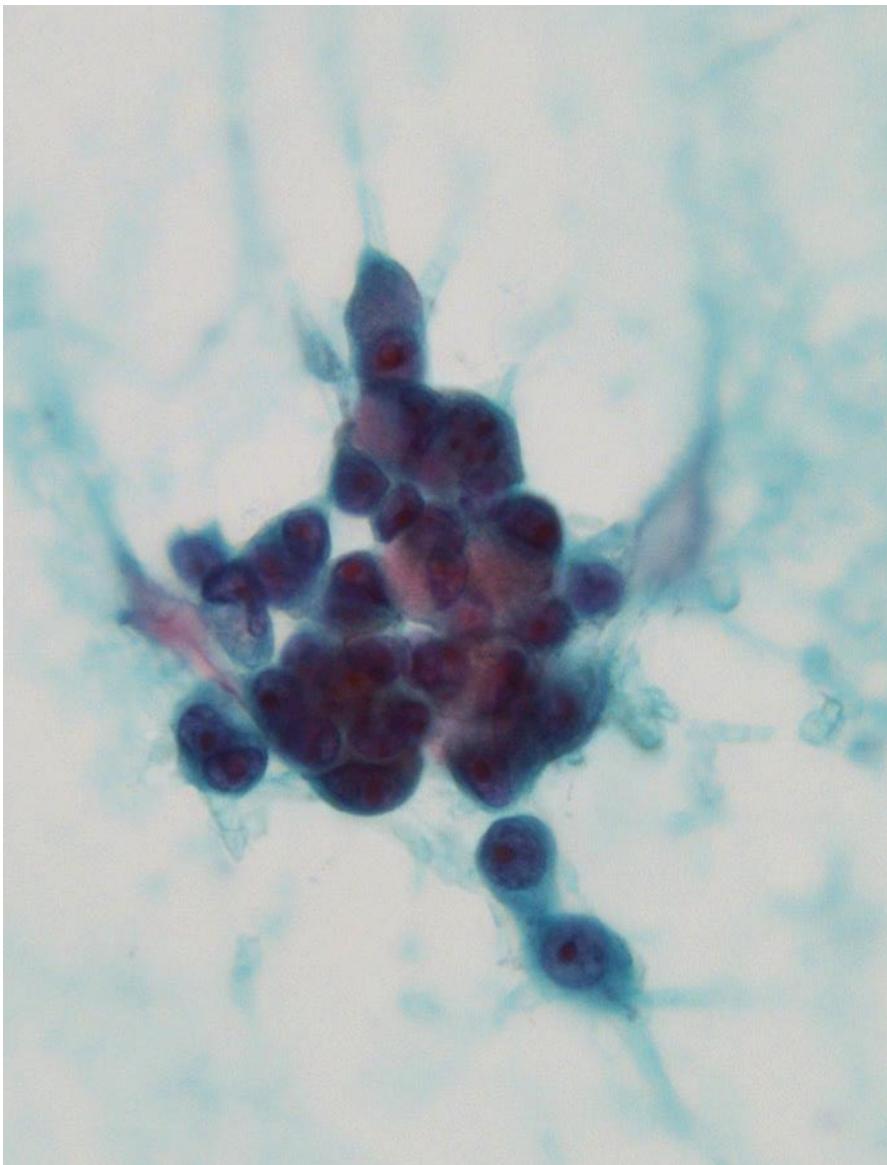
粘表皮癌



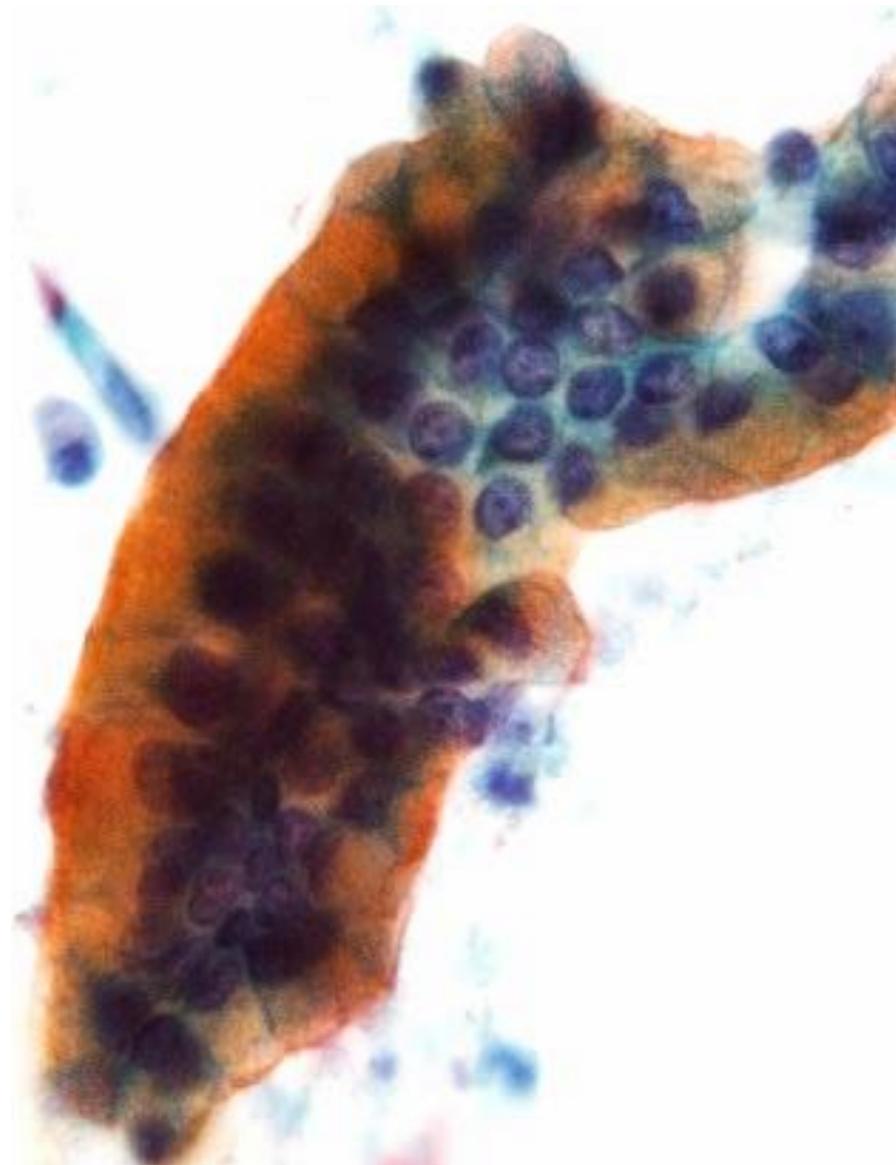
選択肢

1. 杯細胞増生
2. 大腸癌転移
3. 粘表皮癌
4. 浸潤性腺癌(充実型腺癌)
5. 特殊型腺癌(浸潤性粘液性腺癌)

本症例



浸潤性粘液性腺癌



浸潤性腺癌の組織分類

規約分類

WHO分類(2015)

旧規約分類

腺癌

置換型腺癌

腺房型腺癌

乳頭型腺癌

微小乳頭型腺癌

充実型腺癌

特殊型腺癌

浸潤性粘液性腺癌

粘液・非粘液混合腺癌

コロイド腺癌

胎児型腺癌

腸型腺癌

Adenocarcinoma

Lepidic adenocarcinoma

Acinar adenocarcinoma

Papillary adenocarcinoma

Micropapillary adenocarcinoma

Solid adenocarcinoma

Variants of adenocarcinoma

Invasive mucinous adenocarcinoma

Mixed invasive mucinous and non-mucinous adenocarci-

noma

Colloid adenocarcinoma

Fetal adenocarcinoma

Enteric adenocarcinoma

腺癌

なし

腺房型腺癌

乳頭型腺癌

なし

粘液産生充実型腺癌

多くは細気管支肺胞上皮癌粘液産生性

多くは細気管支肺胞上皮癌粘液産生性・非

産生性混合型

膠様(コロイド)腺癌, 粘液囊胞腺癌

高分化胎児型腺癌

なし

印環細胞癌(WHOでは印環細胞癌, 淡明細
胞癌は削除されている)

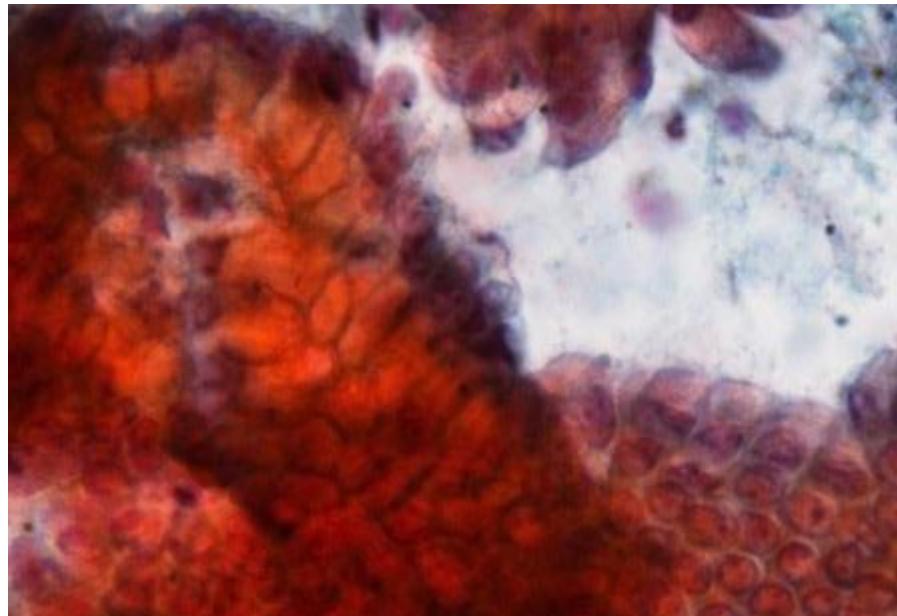
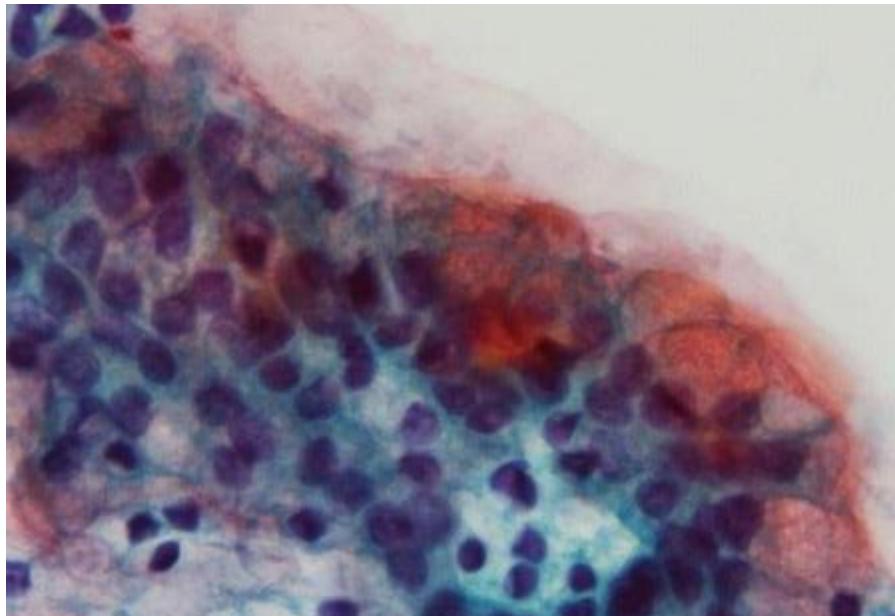
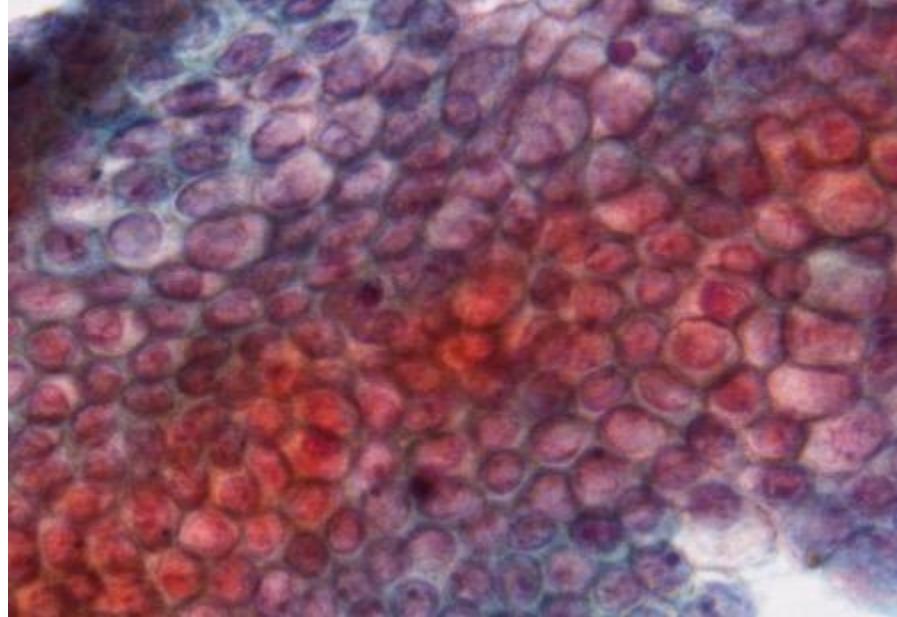
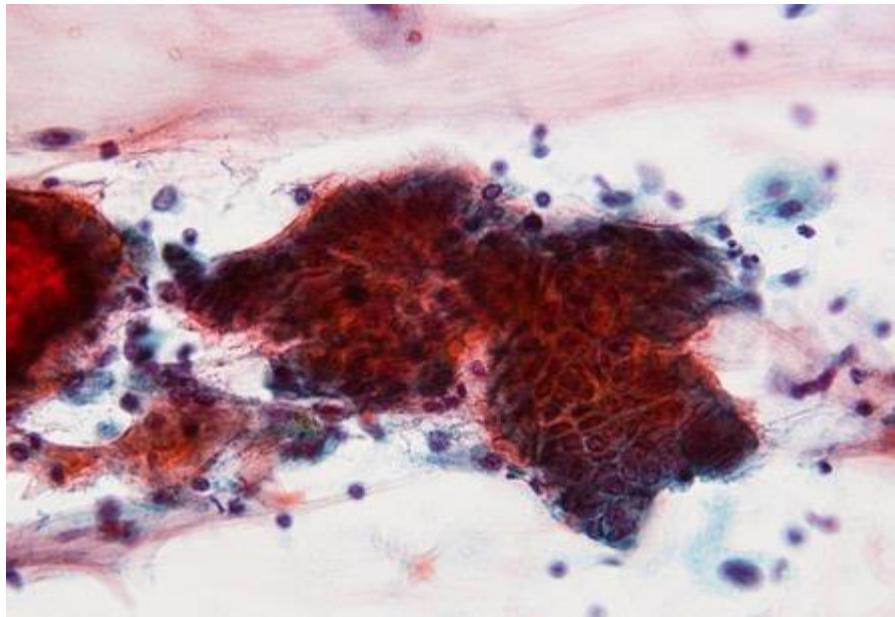
浸潤性粘液性腺癌(臨床像)

発生頻度は肺腺癌の5～10%という報告があり、喫煙による影響や男女差については明らかになっていない。

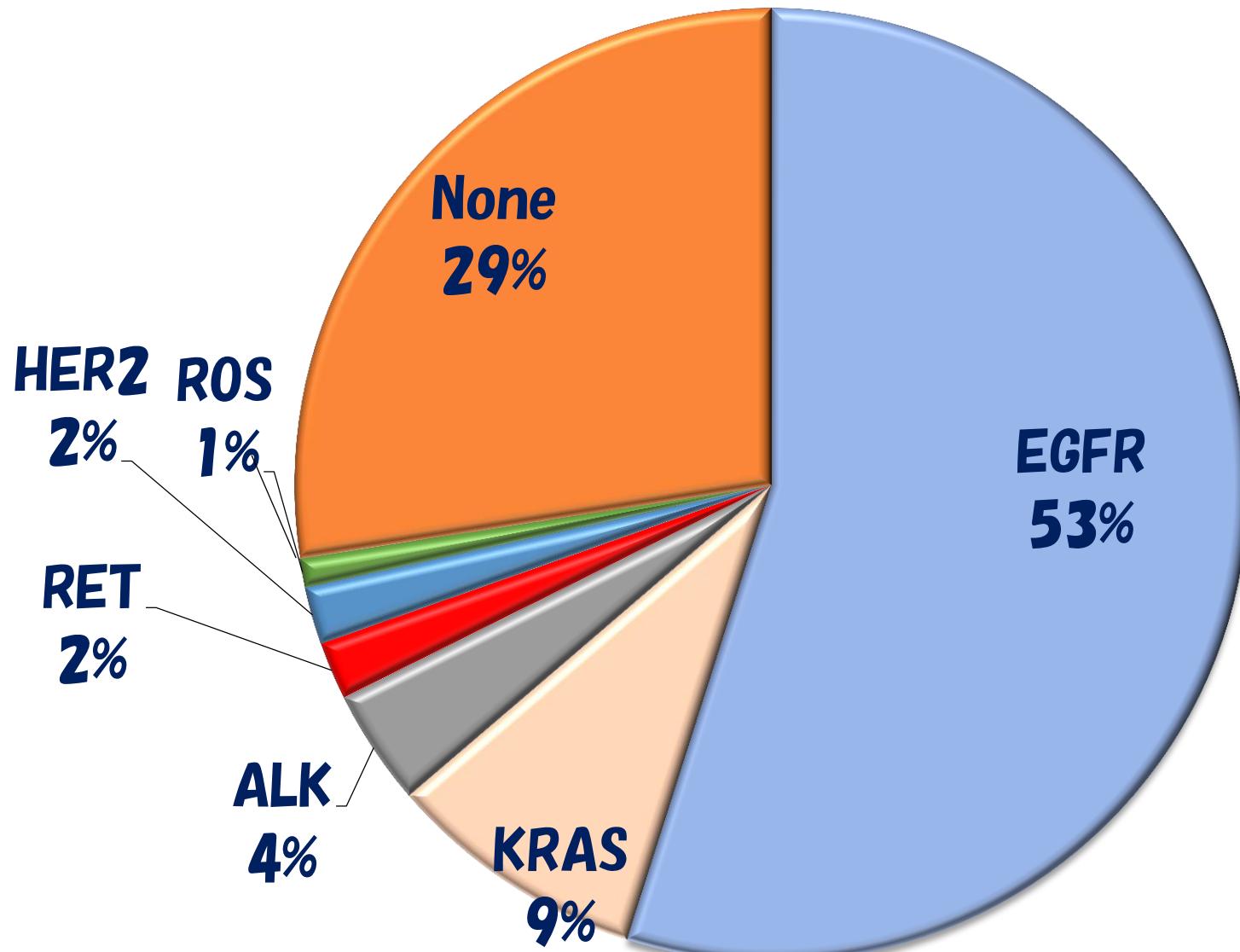
以前のWHO分類第3版での、粘液產生性細気管支肺胞上皮癌 (Mucinous BAC) の大部分に相当するものであるが、本組織型は *K-RAS* 遺伝子変異が高頻度に認められ、多くが浸潤胞巣を有し、広範に肺内転移を起こしやすいことから、非粘液產生性細気管支肺胞上皮癌とは、予後を含む臨床病理学的な背景が異なるため、特殊型として分類されている。

細胞診ガイドライン 2015年版より

浸潤性粘液性腺癌



肺腺癌における癌化責任遺伝子異常

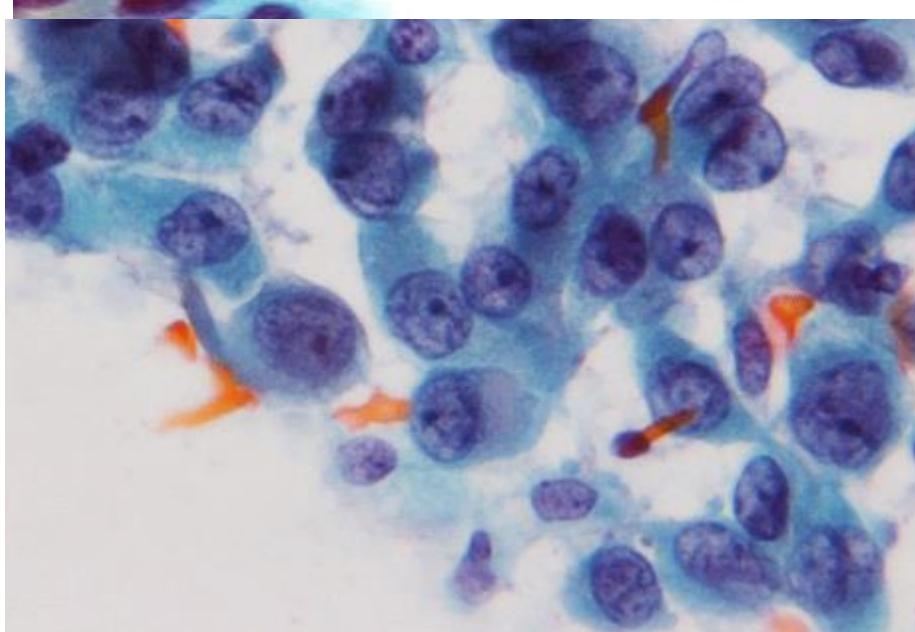
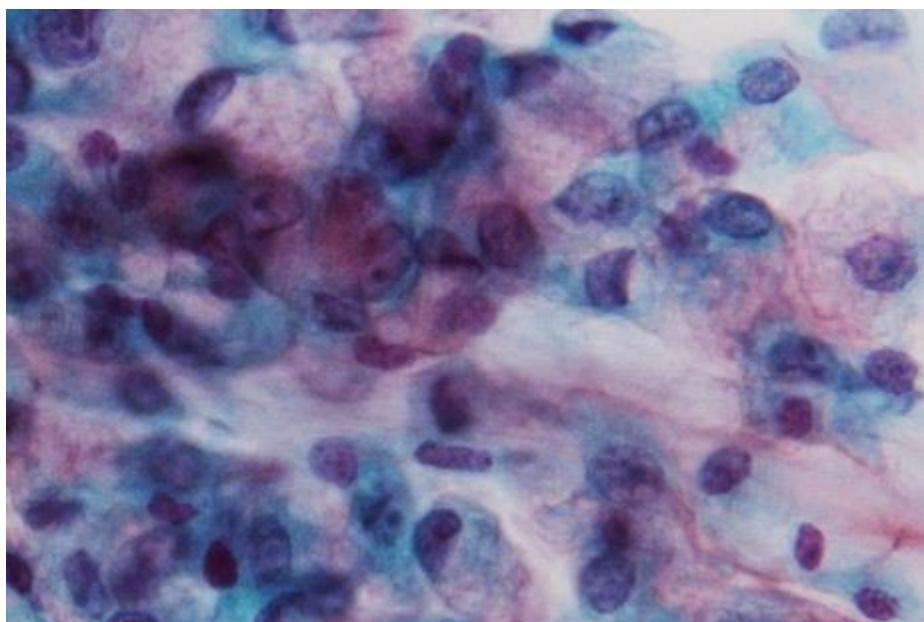
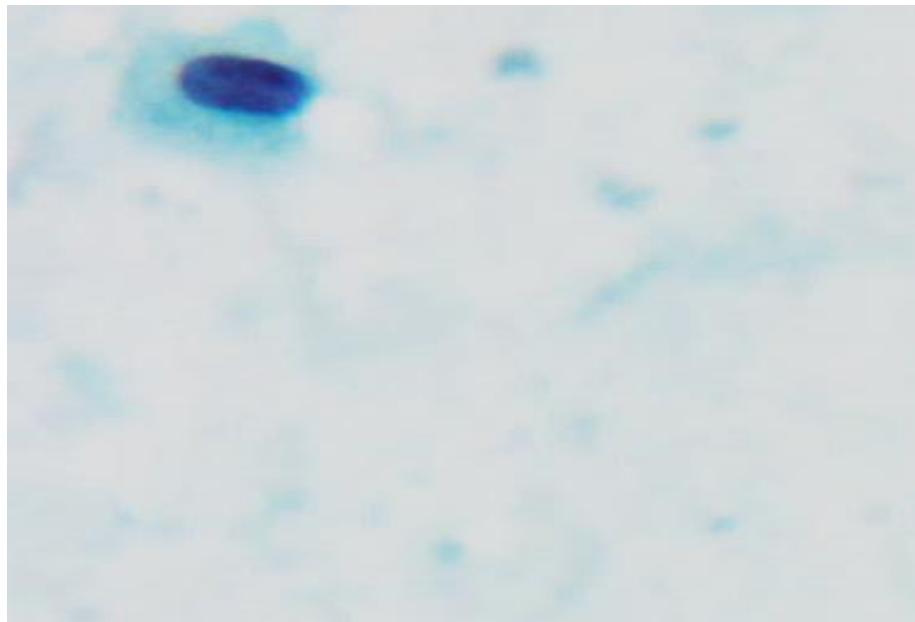
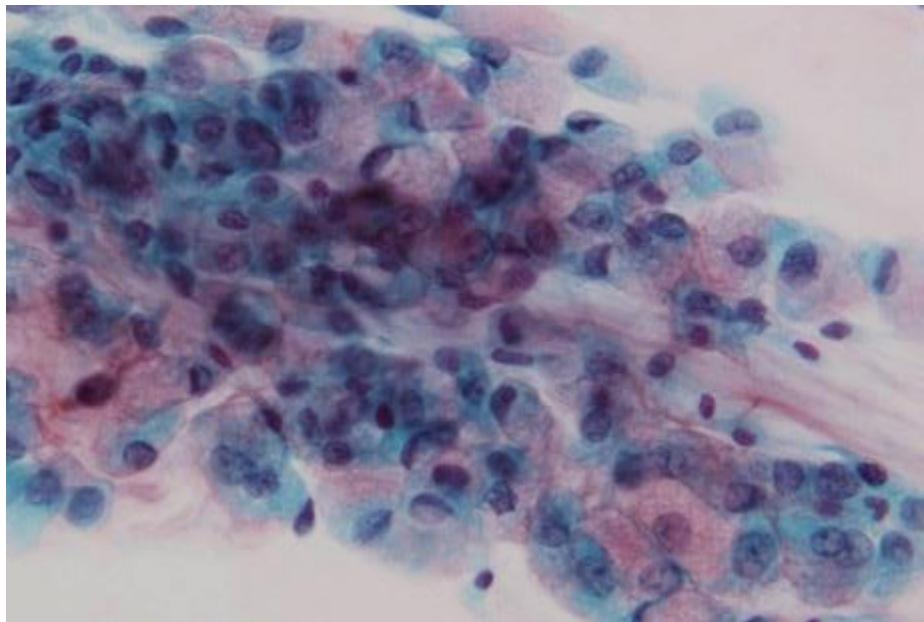


ALK陽性肺癌組織像

ALK陽性肺癌では、特徴的な篩状パターンを示す腺癌が多いとされる。これらのパターンは腺癌組織分類で腺房型腺癌や充実型腺癌に分類される。また、印環細胞の形態を示す腺癌においてもALK融合遺伝子を有することが多いが、この成分は部分的にみられることがほとんどである。

日本肺癌学会バイオマーカー委員会
肺癌におけるALK遺伝子検査の手引きより

ALK陽性肺癌細胞像



まとめ

- ✓ 粘液産生を伴う浸潤性腺癌は特殊型に分類されるが、充実性増殖優位型で粘液細胞を含むものは浸潤性腺癌に分類され、ここでみられる粘液細胞は印環細胞 (signet-ring cell) の形態をとることが多く、ALK融合遺伝子を持つ腺癌の可能性がある。
- ✓ 生検や細胞診では腫瘍のごく一部を見ているにすぎず、優勢度による亜型の推定は困難であるが、微小乳頭状や印環細胞といった、予後や治療法に関連する可能性のある特徴的なパターンや細胞が見られた場合には、付記するのが望ましい。